

第2章 都市計画・まちづくりの課題と将来の都市像

1. 都市計画・まちづくりの課題と方向性

これまで述べてきた本町の現況や住民ニーズから見えてきた課題と方向性について、今回のマスタープランのまちづくりのポイントとして掲げた「つづく」「つながる」「つみあげる」という3つのキーワードをもとに、以下のように整理しました。

つづく

課題と方向性1

「つづく」まちづくり ～人が住み続ける町を目指して～

人口維持と将来を見据えた都市構造（まとまりある核）の創造

本町はこれまで人口が増加しており、県内でも珍しく自然動態・社会動態ともに増加傾向が続いています。しかしながら、少子高齢化の進行は否めず、社会的自立期における転出超過が大きいなど、人口構造の変化は確実に生じており、将来人口は減少に転じていく予測となっています。

また、そのような変化を背景に高齢者などに配慮した福祉のまちづくりに対するニーズも高まりを見せています。

これまで幅広い世代に支持されてきた「住み良い住環境」や「豊かな自然」などの強みを活かして、更なる住環境の質の向上を図るとともに、高齢者が住みなれた既存集落の維持・活性化にも力を入れるなど、地域や集落ごとにまとまりを持ちながら、いつまでも人が住まうまちを目指します。

つながる

課題と方向性2

「つながる」まちづくり ～人や地域や産業がつながりあう町を目指して～

バランスの取れた土地利用と公共施設の管理、ネットワークの構築

人口増加傾向が続く本町では、住宅建築も活発であり、用途地域内や既存集落だけでなくその外縁部においても新築着工が多くみられます。課題1の人口維持の観点からはプラスの要素といえますが、農地の宅地化が緩やかに進展するエリアにおいては、都市的な土地利用と農業施策との調整が不可欠であり、また、既存集落と新たな居住区域との人や文化の交流も促す必要があります。「住」と「農」、「既」と「新」をいかにバランスよく調和させるかが課題といえます。

また、人々の暮らしや交流を支えてきたさまざまな公共施設は、その多くが老朽化がすすみ更新時期を迎えています。

関係機関や町民等との協働・連携も視野に入れ、ひとや文化・地域・産業をつなぐ役割を担う公共施設を適切に維持し、それらを活かしてネットワークの形成を進めます。



つみあげる

課題と方向性3

「つみあげる」まちづくり ～成長し続ける元気な町を目指して～ 産業基盤の確立と暮らしにおける賑わいと活力の創出

まちの活性化を図るために、暮らしを支える働く場としての産業基盤を確立することはきわめて重要です。アクセス性に恵まれた本町の地の利を活かし、既存産業の強化とともに、あらたな産業の創出にも取り組む必要があります。

また、元気なまちづくりが実感できるような賑わいを創出するべく、交流人口の増加を促すことを目標に交流拠点の機能強化を図り、より一層の活用を進めます。

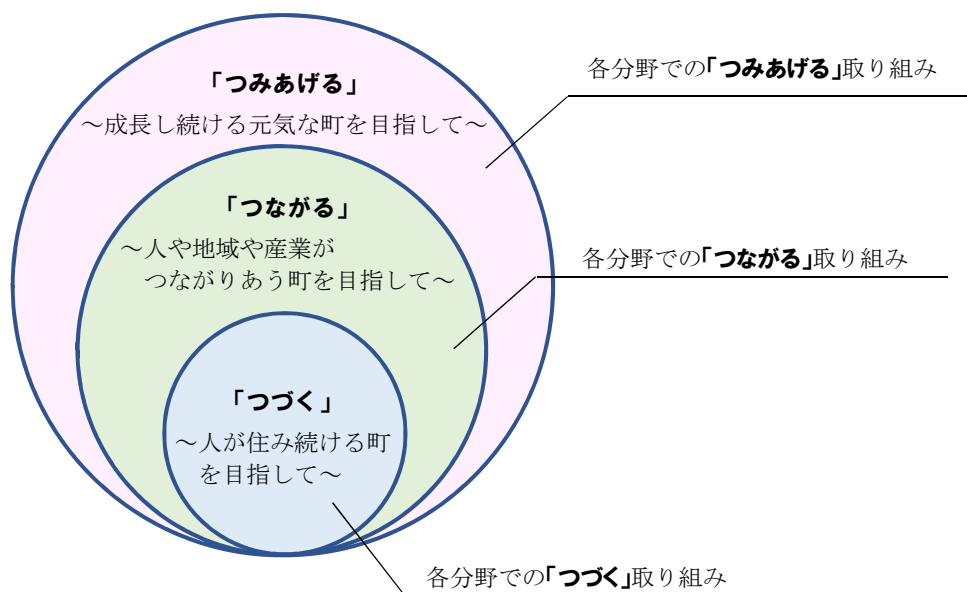
そして、これまでの取り組みや地域性等を踏まえた上で、わがまちが持続的に発展するための取り組みを展開していきます。

以上、課題を3つの柱にまとめて整理しました。

そこで、本都市計画マスタープランのキャッチフレーズを

「つづく、つながる、つみあげる」 ～わがまちみまたのまちづくり～

とし、各分野の方針（第3章：都市整備の方針）を「つづく」「つながる」「つみあげる」の3つのポイントに分けて整理します。



※上記まちづくりを実現するために、第3章では各分野の取り組みを示します。

2. 将来人口

上位計画である第五次三股町総合計画後期基本計画では、平成32年の目標人口を24,629人とし、都市計画マスタープランの目標年次である平成49年の人口は23,611人としています。平成49年までの推移をみると、人口は減少傾向にあり、人口比率は生産年齢人口比率が減少傾向、高齢人口が増加傾向になっていますが、この間「若い世代の仕事・雇用、子育てを支援する生活環境の整備」などを進めることで、平成57年以降はその傾向も回復に向かう目標としています。

本都市計画マスタープランもこのことを踏まえて、課題と方向性1で示したように、人口を維持し人が住み続ける町を実現するための取り組みを整理します。

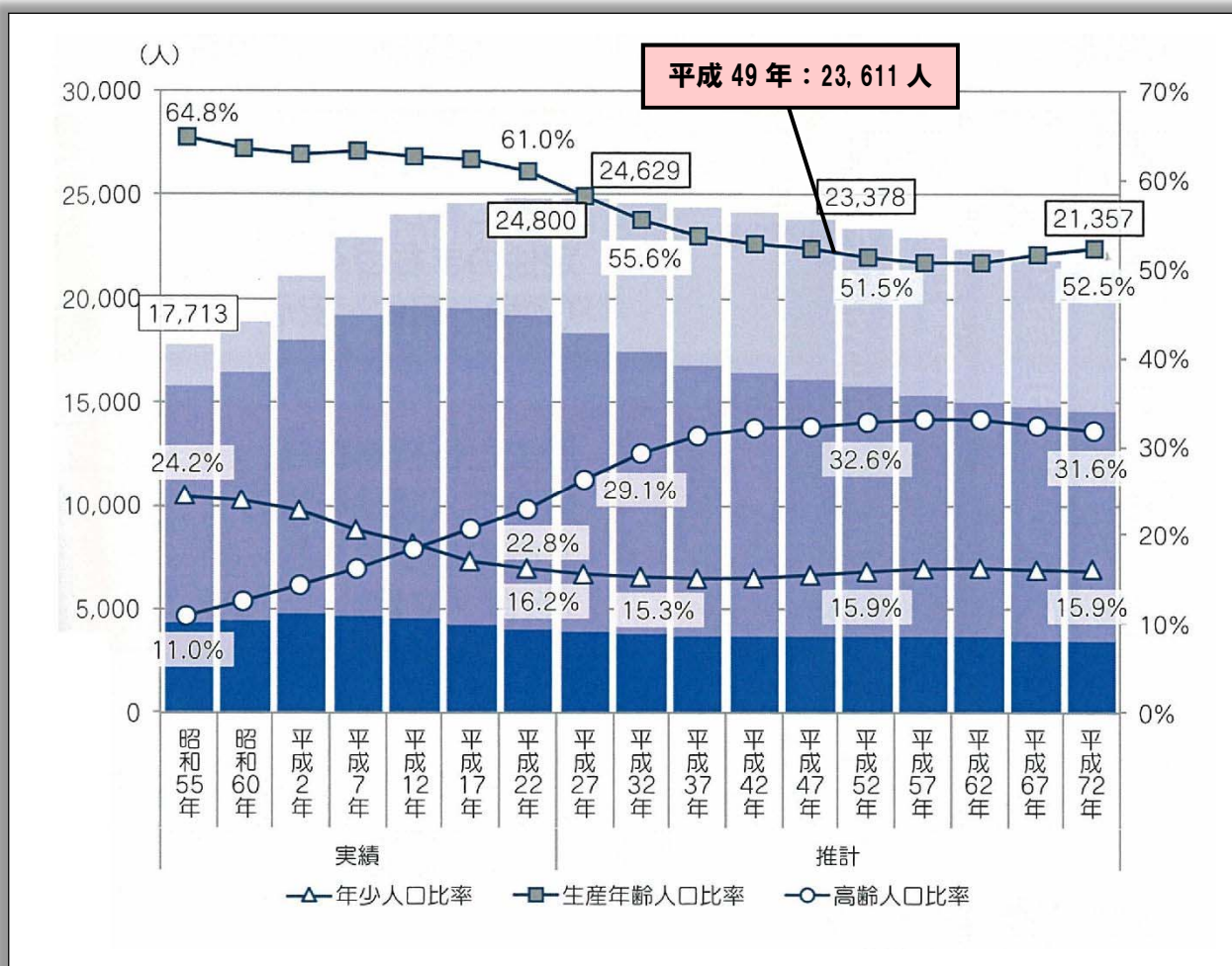


図-2-1 将来の人口目標



3. 将来の都市像

3つに整理した「課題と方向性」は、いずれも第五次三股町総合計画後期基本計画で掲げる町の将来像『自立と協働で創る元気なまち 三股』に即した内容であり、本都市計画マスタープランにおける将来の都市像も、総合計画と同様とします。以下は、三股町総合計画と本計画との関連を整理したものです。

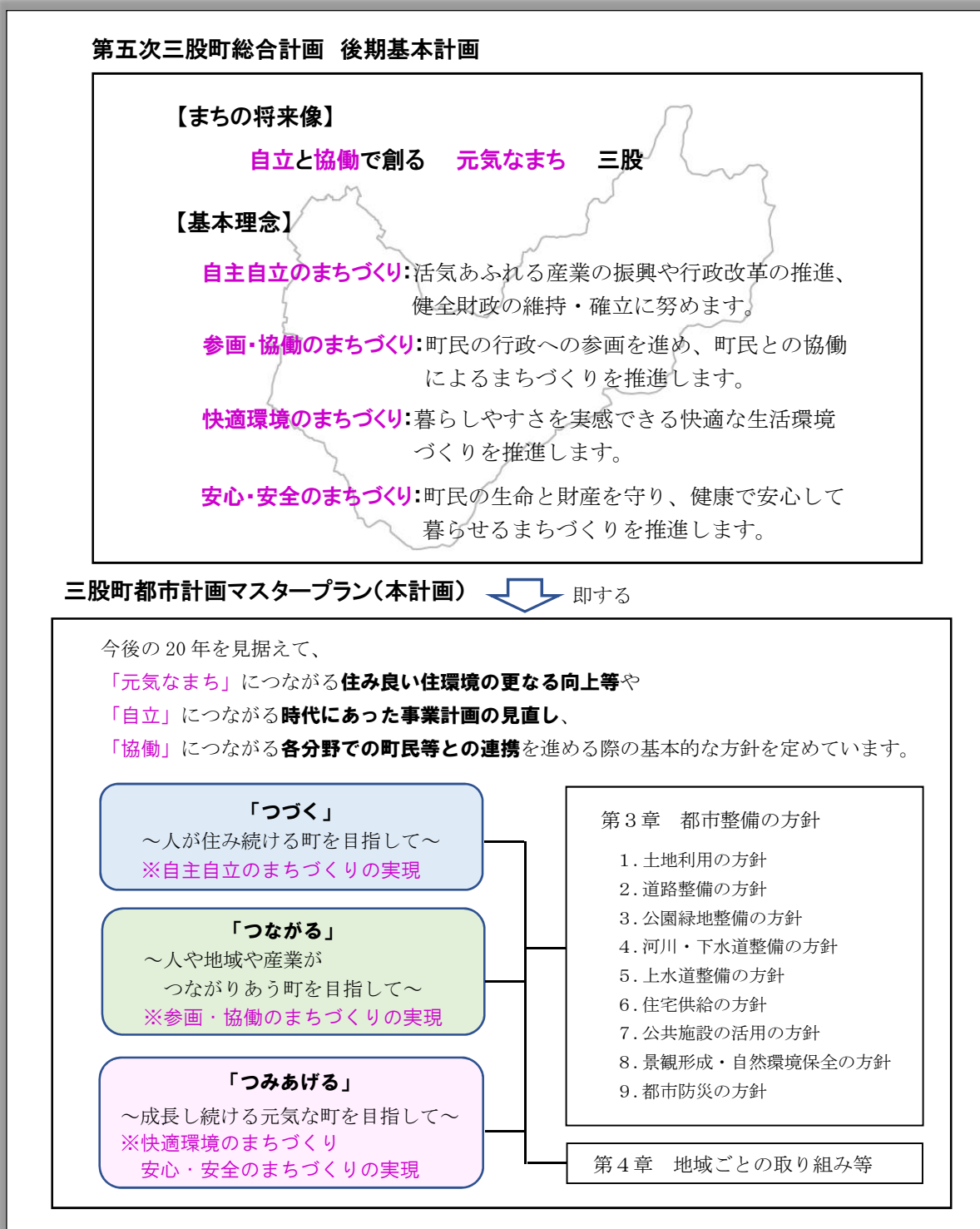


図-2-2 総合計画と都市計画マスタープランとの関係

また、将来像の実現に向けて、「課題と方向性」を「都市の構成要素(ゾーン・拠点・軸)」に分けて整理し、それぞれの方針を示します。

①まちの「ゾーン」区分

[居住ゾーン]

ベッドタウンとして幅広い世代から支持されてきた良好な居住環境を維持・向上させ、持続的な人口集積を図るゾーンです。安心・安全で、より質の高い住環境の創出に努めます。

[交通の便を活かした工業ゾーン]

宮崎市と都城市を結ぶ国道269号や九州縦貫自動車道宮崎線の都城ICに近接している立地特性を活かし、工業地としての集積を図るゾーンです。このゾーンでは、工業用地としての必要な整備を継続して行い、積極的な企業誘致で一層の工業集積を図ります。また、居住区域とも近接していることから、公害防止・環境保全対策にも取り組みます。

[田園と調和した居住ゾーン・里山ゾーン]

用途地域外の既存集落とその周辺の豊かな田園や森林を含むゾーンです。このゾーンでは、本町の重要な基幹産業である農業の振興を図り、自然豊かなやすらぎある住環境で育まれる多様なライフスタイルの創出に取り組むとともに、良好な里山風景を後世に残すため、農用地の適切な保全・確保に努めます。

[みどりのゾーン]

本町の豊かな自然環境の源となるゾーンです。このゾーンは多様な生態系と共生するまちを創造するために不可欠な森林資源であり、積極的な保全に取り組みます。

②まちの「拠点」区分

[交通拠点]

JR日豊本線三股駅と餅原駅を位置づけます。特にJR三股駅については、鉄道やバスの交通結節点として交通機能の維持に努めるとともに、駅舎多目的ホールやロータリー広場等の施設を活用し、町の玄関口らしい賑わいの創出に努めます。

[情報発信拠点]

本町の特産品等の情報発信やイベント会場としても利活用されている「産業会館」については、三股の魅力を発信する場として情報発信拠点に位置づけます。



[交流拠点]

町内外からの来訪者・利活用がある「ふれあい中央広場」と「上米公園」、「旭ヶ丘運動公園」を位置づけます。イベント等で幅広く活用されている「ふれあい中央広場」、町内外の幅広い世代の人たちが憩いの場として訪れる「上米公園」、各種スポーツ大会や日常のウォーキングなど多様なスポーツ振興の場となっている「旭ヶ丘運動公園」、これら3つの拠点の特性を踏まえ、それぞれの機能強化を図ります。

[新しい働き方の支援拠点]

時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を推進し、独立した仕事を行う共働空間（コワーキングスペース）等の機能を有する新しい働き方の支援拠点施設を位置づけます。

[農村地域工業等導入拠点]

本町における雇用の確保と農業および工業の均衡ある発展を図ることを目的とした「農村地域工業等導入拠点」の維持と新規創出を進めます。

[行政拠点]

本町の行政サービス・被災時の対応拠点である三股町役場を位置づけます。

[文化拠点]

「思い 育み 知の創造」を基本理念に開館している三股町総合文化施設（文化会館及び図書館）を位置づけます。町の文化向上及び文化的交流の拠点として、機能強化に努めます。

③まちの「軸」区分

[広域連携軸]

都城市と日南市を結ぶ県道都城北郷線、宮崎市と都城市を結ぶ国道269号線、都城広域都市圏の環状線となる県道都城東環状線、山之口SICと連絡する県道三股高城線を位置づけます。これらの路線は、他都市との交流・物流に不可欠な骨格的交通軸であり、まちを支える重要な基盤として機能強化に努めます。

[地域連携軸]

町内の地域間や市街地の補助幹線道路として機能している安久今市線、新馬場郡元通線、三股都城線、山王原早水線、宮村・小鷹線を位置づけます。これらの路線は、本町内の重要な路線として機能維持に努めます。

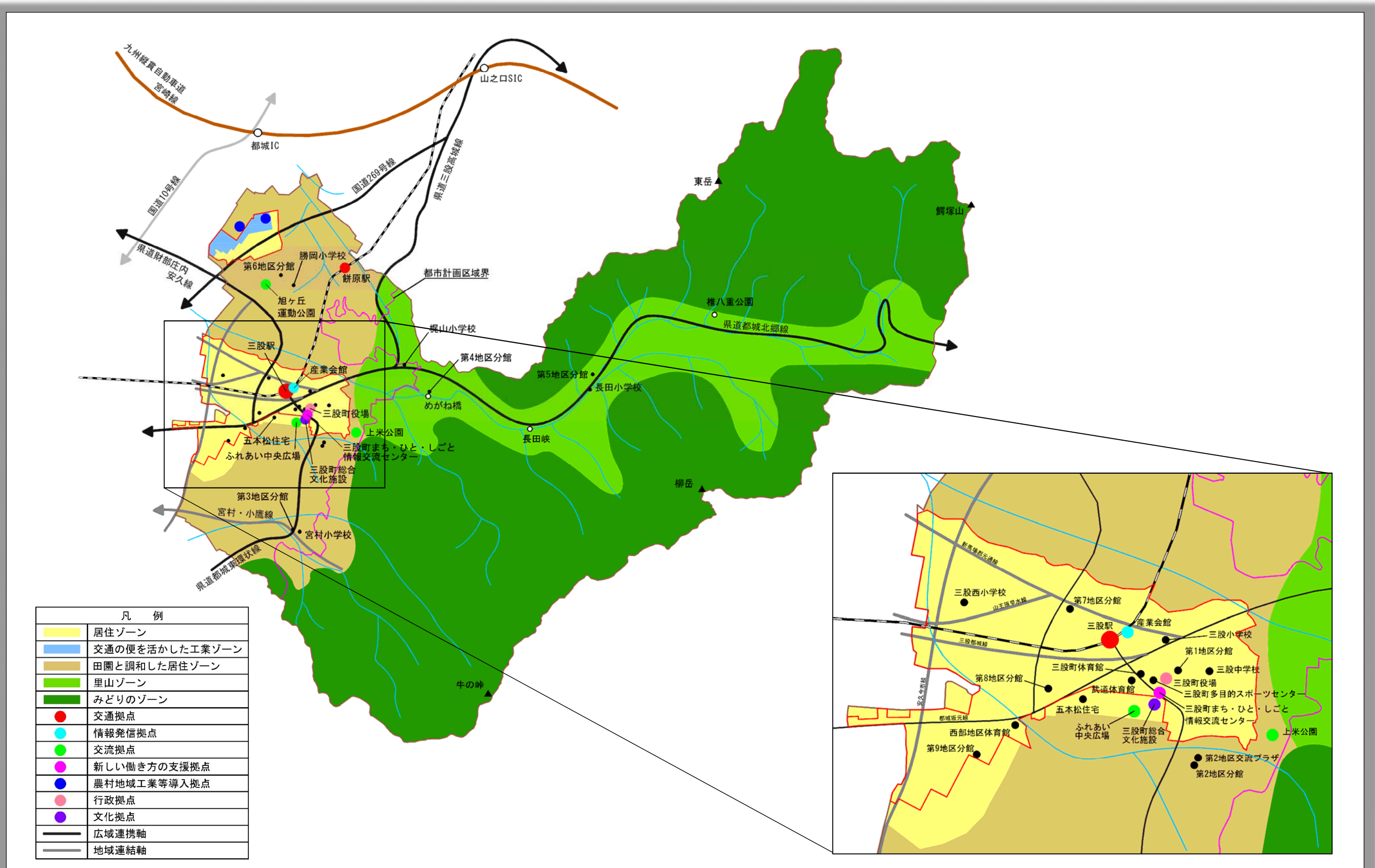


図-2-3 将来都市構造図